

フォレストニュース

植林が地球を救う
 平成23年(2011)6月10日
No. 42
 発行 高津啓洋



パンタナールの特徴は、ボリビアのアンデスに降った雨が、勾配のないパラグアイ川を4カ月の時間をかけて、川を下ってきます。その特徴として日本のように激しい、鉄砲水とかの氾濫はありませんが、水が引くのにも数カ月を要するといった特徴があります。

増水続くパラグアイ川

第一植樹園の中に、川の増水と共に水が浸入してきています。上の写真は、下の写真より手前から撮影したものです。下の写真のユーカリの林の中にまで水は浸入してきています。

今回のように、水が上がるのは1988年以降初めてとなります。1988年の時は、この辺一帯が1メートル50センチから2メートル20センチまで水の深い大きな川となったそうです。ですからこの辺のあたりまで、アキダバンやカルメンレティシアの定期船が走っていたそうです。

今回の増水も、今しばらく続くと思われませんが、大洪水になるという発表はありません。

現地では気の抜けない日々で、警戒を怠ることができません。



400本の植樹とカーボンオフセット

当会では今まで、「家庭で400本の植樹を」と、キャンペーンをしてきました。その理由と言うべきか、カーボンオフセットという観点から見てみます。

人間の経済活動や生活などを通して「ある場所」で排出された二酸化炭素などの温室効果ガスを、植林・森林保護・クリーンエネルギー事業などによって「他の場所」で直接的、間接的に吸収しようとする考え方や活動の総称をカーボ

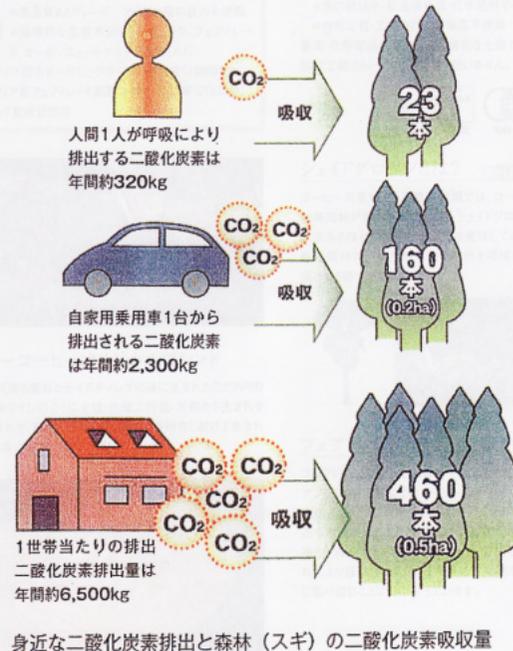
ンオフセットと言います。

植林などにより二酸化炭素を固定化します(=二酸化炭素の吸収量を増やす)。尚、カーボンオフセットを通して、二酸化炭素排出が実質ゼロになった状況をカーボンニュートラル、二酸化炭素をより多く相殺した場合をカーボンポジティブともいいます。

世界の環境保全活動の中で、最優先すべきは森林地帯、特に熱帯、アマゾン、パンタナール、ボルネオ等の聖域を保全することです。そして、家庭単位のカーボンオフセットを実現する必要があります。また、カーボンオフセットは、地球上のどこに居ても同じ効果が認められています。一世帯当たりのCO2排出量を1本当たりの木にすると、杉で460本となります。また、人間一人が呼吸により排出する二酸化炭素は年間320キログラムになり、23本の植林が必要です。自家用車1台から排出される二酸化炭素の平均は年間2300キログラムで、これを吸収するには、160本の植林が必要です。

また、一世帯当たりの二酸化炭素の年間排出量は約6500キログラムになります。これを吸収するには、460本の植林が必要となるために、私達も家庭での目標を立て活動を継続しています。

一世帯当たりの排出量は1本あたりの木にすると460本



【お知らせ】今年も、8月25日から植樹ボランティアが出発します。現地学生らとの交流会もあります。植樹支援を受け付けています。